

地域経済対談

14 上

橋本昌

茨城県知事

山海嘉之

サイバーダイイン 最高経営責任者

橋本昌茨城県知事とサイバーダイインの山海嘉之CEOには共通の思いがある。世界的視野で住みよい社会を築くことだ。少子高齢化を補うために国際舞台で活躍できる企業の育成に力を注ぐ橋本知事。国内外の優れた頭脳と技術を結集して福祉・介護分野などで役立つロボットスーツHALを開発した山海CEO。つくば、日立、東海など科学技術創造立国日本を支える茨城県の魅力について、2人が語り合う。

「陸・海・空のインフラを整備し

産業大県づくりを推進したい

橋本昌 茨城県知事

橋本昌

Masaru Hashimoto

1945年茨城県生まれ。69年東京大学法学部卒・自治省入省。自治省財政局公営企業第一課長などを歴任した後、93年茨城県知事に就任、現在4期目。総合資源エネルギー調査会委員。関東地方知事会会長。

山海CEO 茨城県では今、「人が輝く元気で住みよいばらき」を目標として、産業を活性化させるため「産業大県づくり」を推進していらっしゃる。産業立地や基盤整備の面で着実な成果が上がっているようですが、どのような狙いで各施策に取り組んでいらっしゃるのでしょうか。

橋本知事 「産業大県づくり」の狙いは、茨城県がこれからの日本の国民生活を支えていける県になることです。エネルギーや食料を輸入に頼っている日本にとって、約28億人と世界人口の42%を占めるBRIC（ブラジル、ロシア、インド、中国）や東南アジア諸国の経済成長は脅威となっています。そういうなかで、日本が今後、エネルギーや食料をどのように確保していくか、国家的に大きな課題になるでしょう。一方、地方では人口減少がすでに始まっています。これもまた深刻な問題で、例えば公立病院の経営が厳しくなっているように、少子高齢化が進む地域の福祉水準を保つのは非常に困難です。日本は今後、外貨を稼がなければ、これまで同様の生活が確保できなくなっていくのではないのでしょうか。私は茨城県が外貨を稼げるようになることを目指して産業大県づくりを推進しています。具体的には、中小企業の振興をはじめ、企業誘致、さらには最先端の科学技術拠点づくりに取り組んでいます。



「つくばをはじめとして

茨城県は日本の最先端科学技術の拠点となる」

山海嘉之 サイバーダイネCEO(最高経営責任者)



上 / 1日当たりの利用人員が24万人の大台を超えたつくばエクスプレス。ITに強い秋葉原と学園都市つくばを結び、これからの技術開発に多大な影響を与えそつた。下 / 2010年3月の開港に向けて整備が進められる茨城空港。



山海嘉之
Yoshiyuki Sankai

1958年岡山県生まれ。87年筑波大学大学院修了。日本学術振興会特別研究員、米国Baylor医科大学客員教授、筑波大学機能工学系教授を経て、現在、筑波大学大学院システム情報工学研究科教授、グローバルCOE国際拠点リーダー。2004年6月大学発ベンチャー「CYBERDYNE(サイバーダイネ)」を設立。受賞歴多数。

山海CEO 知事のご説明に出てきた「最先端の科学技術拠点」は、この県の特徴の1つですね。特に、私が住んでいるつくば市は、世界的にブランド力が高まってきています。
橋本知事 それはうれしいですね。どんなことから、それを実感されていますか。

山海CEO 例えば、私が所属する国際的学会の委員会の出席者のうち、約3割はつくばから来ることもあるのですよ(笑)。また、こんな例もあります。当社の社員募集に応募する人の約6割は海外からですが、なかには、以前につくばの研究所にいた人もいます。海外から見ても、「つくばに行けば最先端技術がある」という拠点形成ができれば、どんどん人も集まってくると思います。ただ、惜しむらくは、大学や国の研究機関が人や社会に役立つ有用な研究にあまり目を向けていないような気がします。知事のお考えにもあるとおり、科学技術はもつと産業に直結している部分があってもいいはずですが、これまでは残念ながら顕著な成果があまり上がっていません。しかし、この問題も解決の突破口が見え始めているような気がします。大学や研究所も新産業創出にやっと思いを向け、本来、工学が目指すべき、社会に役立つものを作って還元していくことを進めるようになりました。特に、つくば地区はその流れに合致するエリアです。



橋本知事

日本における科学技術の一大拠点は、やはり、東京やつくばからなる「リア」だと思います。つくばには外国人も含めて約2万2000人の研究者がいますが、そのうち日本人の博士号取得者は5700人に達します。すぐ近くの東京には国内外の頭脳が集まっていますので、それらの優秀な人材の交流を活性化していくことが、日本の将来にとって非常に重要なことであると痛感しています。

山海CEO

茨城県の南部地域、特につくば市は、つくばエクスプレス（TX）の開通によって、東京への交通の便が格段によくまりました。例え

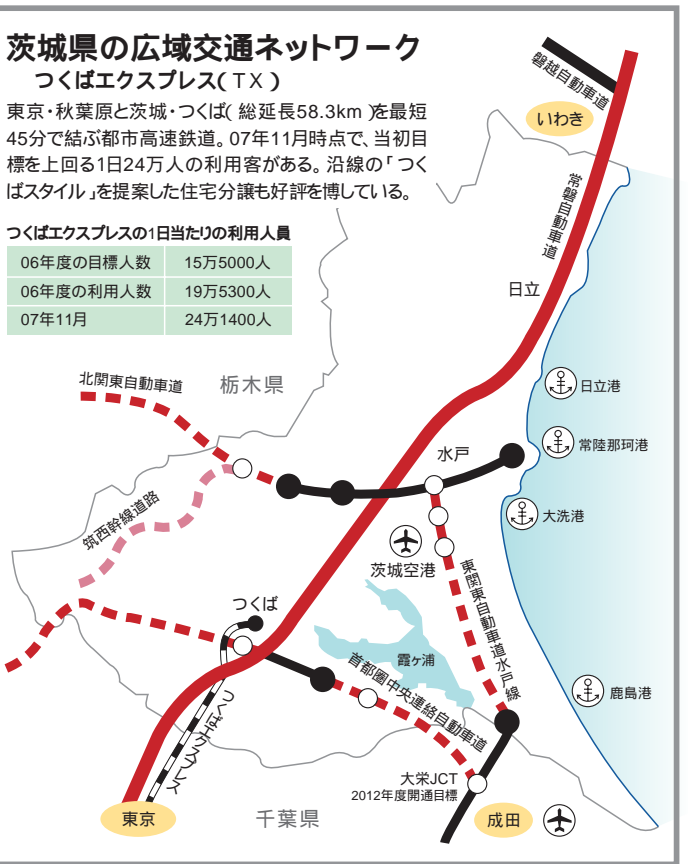
ば、午前中に東京の委員会に出席して、午後はつくばの大学で講義を行ない、そして夕方にもまた東京での委員会に出席できますから（笑）。

橋本知事

高速道路も着々と整備されています。首都圏中央連絡自動車道（圏央道）が2012年に全線開通予定です。また北関東自動車道も今年4月に桜川筑西インターチェンジまで伸びて東北自動車道への接続も09年と目前に迫ってきました。

山海CEO

圏央道の存在は大きいですね。つくばから成田国際空港まで30分強で行けるようになるわけですから。私はTXや圏央道の整備計



画があったからこそ、茨城県南部にサイバーダインの本社を設けました。成田空港への交通手段は1本の線に過ぎないように見えますが、実はこの1本が産業にとっては大きいのです。TXと圏央道の整備によって、必ず、つくばは最先端科学技術の一大拠点になるものと期待しています。

橋本知事

つくばだけでなく県全体が日本の最先端技術の拠点となるように導きたいですね。企業や研究者、科学者が活動しやすい環境を作るためにも、できるだけ早く陸・海・空の交通ネットワークを充実させたいと考えています。海上交通としては常陸那

珂港や鹿島港の整備、そして空の交通としては2010年3月の開港に向けて茨城空港の整備を進めています。これが開港すると、国内の主要都市への交通の便が格段によくまります。

山海CEO

交通網の発達は、企業活動にとって非常に大きなメリットになります。つくばは関東圏内ならば自動車でも容易に動けますが、それを超える地域へ行こうとすると、とたんに5〜6時間もかかるほど距離感があるのが実情です。

橋本知事

例えば、羽田空港まで遠いですからね。たまに会議の時間がオーバーして飛行機に乗り遅れたな



なんて話も聞きます(笑)。

山海CEO その点、茨城空港が開港すれば、国内の移動が大変便利になります。茨城空港は、国内移動拠点として期待しています。

橋本知事 国内移動拠点としての位置づけにとどまりません。例えば、海外ではビジネスジェット機を使った企業訪問なんてことが、さらにあるわけです。一方、日本にビジネスジェット機で来ようと思っても着陸する場所がない。だから日本には行かないという企業トップが海外にはたくさんいます。今後、ますますビジネスがグローバル化していくとともに、

空港の必要性も高まります。将来的には空港を持っていない地方は、ビジネスなど色々な側面でハンディを負うようになるでしょう。

山海CEO これらの交通ネットワークの整備などが功を奏して、企業誘致も進んでいるようですね。

橋本知事 昨年は、これまで取り組んでいた企業誘致が大きな成果となつて実を結びました。常陸那珂地域に大手建設機械メーカーの「マツヤ日立建機の新工場が操業を開始しました。また、鹿島地域では国内最大手製材会社の中国木材、県西地域では国際的な産業用ロボットメーカーのフ

アナックが、相次いで操業を開始しました。企業誘致が好調なのは、企業にとっていかに活動しやすい県かということを理解していただいているからだと思います。茨城県は、企業誘致によって県内の雇用を促進するとともに、日本経済の発展という面でも貢献していけるように進化を遂げています。

山海CEO 企業数や雇用の面で、茨城県の地域産業の大部分を支えているのは中小企業です。その振興策について、どのように取り組まれていますか。

橋本知事 中小企業の活力なくして、茨城県の活性化を図ることはできませんから、県としても注力しています。しかも茨城県には優れたものづくり技術を有する企業が数多い。

山海CEO そうですね。中小企業庁の「元気なモノ作り中小企業300社」にも8社が取り上げられています。

橋本知事 県では、そのような新事業などへの取り組みに意欲的な企業に対して、新製品・新技術の開発をはじめ、大学や大企業OBなどの専門家を派遣による生産性の向上、融資や投資による資金調達の円滑化、地域産業資源の活用促進、東京ビッグサイトにおける産業大県フェアや関東5県ビジネスマッチング商談会の開催による販路開拓など、企業の成長段階に応じた総合的な支援策を講じております。

山海CEO 知事は本当に茨城県全体を見渡して、かなり細かく戦略的

に多彩な施策を展開されているように思います。日立やひたちなか、鹿島などに立地している企業など、茨城県には非常にしっかりとした技術を有する企業があるので、当社もできるだけ茨城県の資産を活用しながら、事業を拡大していきたいと思っています。

橋本知事 私は今年の幹部職員向けの年頭所感でも、サイバータインのことに触れました。革新的な技術で新事業への取り組みに意欲的であり、「産業大県づくり」をリードする企業の1つとして県でも期待をかけているからです。

山海CEO ありがとうございます。当社が成功すれば、それをモデルに茨城モデルというものができるとも生まれません。さらに茨城モデルを参考に様々な企業が参入し、県として得意分野に育っていくといいなと思っています。(次号に続く)

茨城県概要

【人口】297万5167人 【面積】6095.68km²

【県概要】圏央道やつくばエクスプレス(TX)、茨城空港など、恵まれた事業環境が評価され、県外企業立地件数では05年～07年上期まで全国1位。工場立地面積も07年上期は全国第2位(06年は全国第1位)。つくばや東海などの科学技術、日立のものづくり基盤技術、鹿島の素材産業など多様な産業が集積し、首都圏からも至近距離。

東京中央卸売市場の農産物シェア全国1位(06年)、筑波山や霞ヶ浦などの豊かな自然に加え、偕楽園や鹿島神宮といった名所旧跡、笠間焼や結城紬、温泉などの観光資源も豊富で多くの魅力にあふれている。